

令和5年度

二本松市教育委員会指導委員会研究資料

自ら考え、主体的に判断し行動する子ども 夢中になって対象とかかわり、学びに没頭する子ども の育成を目指して



令和6年3月

二本松市教育委員会

目 次

はじめに

I 今年度の研究概要 P. 1

II 資料の見方 P. 2

III 授業改善の実際 P. 3

IV 研究のまとめ P. 39



はじめに

令和6年能登半島地震や未だ収束をみない感染症等の自然による驚異、AIの発達等による社会の著しい変化など、新たな課題が山積している中、私たちは、それらの課題に対応するため、「何ができるのか」を模索し、周りの人々と協働して解決していく力が求められています。学校においても、夢や希望を追い求めて未来を切り拓くことのできる子どもを育成することができるよう探究的・協働的な教育活動を展開しています。特に授業では、子ども一人一人が思いや願いのもとに自らの問いをもち、夢中になって他者との対話を活性化させて解決するなど、子ども主体の学びを推進し、一人一人の学びの状況に応じた効果的な指導が求められております。

二本松市教育委員会指導委員会においては、教職員の授業力向上を目的とし、本市の目指す子ども像「自ら考え、主体的に判断し行動する子ども」「夢中になって対象とかかわり、学びに没頭する子ども」の育成を目指して研究を推進してまいりました。今年度は、本市の目指す子ども像に迫るため、指導委員各々が目の前の子どもの学びの実態と日々の授業を見つめ直したときに浮かび上がる課題を洗い出し、改善の視点を明確にして授業を改善し続け、指導力の向上を目指してきました。

本冊子は、指導委員各々の視点による手立ての実際や成果と課題から授業改善に迫るための研究についてまとめたものです。目の前の子どもたちを思い浮かべたときに、その成長に寄与するためにいかに授業を改善していくのか。そして、実践で明らかになった成果や課題を次の実践にどのように生かしていくのか。指導委員各々が、「目の前の子どもに寄り添った授業改善こそが真に子どもの資質・能力の向上につながる」という思いのもと、目の前の子どもたちの学びに寄り添い、同僚性を発揮しながら研鑽を積み重ねた熱意あふれる実践となっています。

教師自身が今現在行っている授業改善を目の前の子どもたちの学びと照らし合わせたとき、その改善が子どもたち一人一人の学びにつながっていたのか、同僚とともに問い続け、学び続けていくことこそが、授業力向上につながり、子どもたちの笑顔あふれる授業が構築できるものと考えます。学び続ける教師のみが学び続ける子どもを育成できるという信念のもと、本冊子が本市の教職員のこれからの授業改善に活用され、より質の高い授業実践につながることを期待しています。

結びに、指導委員の皆様の真摯な取組に敬意を表しますとともに、各学校の校長先生・園長先生、諸先生方の御理解と御協力に改めて感謝を申し上げます。

令和6年3月

二本松市教育委員会教育長

渡辺 惣吾